

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

二兎を狙い(1年生) 二兎を追い(2年生) 二兎を獲る(3年生) ~ 希望進路の実現 100%と自主活動の取組み 100% ~

- 1 第一希望の進路を実現する確かな学力を養成する。
- 2 さまざまな自主活動の体験を通して、しっかりした人権意識とグローバルな視点をはぐくみ、高い志を抱いて社会に貢献する人材を育成する。
- 3 芸能文化の学びの中で新たな自分を発見し、大阪の文化の発展に寄与できる人材を育成する。

2 中期的目標

1 進路を実現する確かな学力の養成

(1) 生徒が生き生きと学ぶ授業づくり

- ア 生徒が生き生きと取り組む魅力ある授業づくりのために、研究授業、学校教育自己診断、授業アンケート等を効果的に活用する。
- イ ICTを活用した授業を全教科で行い、進路実現とこれからの時代に求められる、知識・技能とそれを基にした思考力・判断力・表現力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を育成する。
- ウ 一人ひとりの生徒のニーズにできるだけ応えるため、習熟度別授業、選択科目の充実を図る。

(2) 一人ひとりの生徒の希望の進路を実現する。

- ア 大学関係者による講演や大学見学など、進路について考える機会を用意し、希望の進路を実現する強い意志を育む。
- イ 年間を通じた自習室運営、長期休業中の学習マラソンなどに学校組織として取り組み、生徒一人ひとりの学習習慣の確立を図る。
- ウ 外部機関を活用して効率的に情報収集、情報分析を行い、新大学入試に向けて生徒支援のための情報共有を進める。

* 令和2年度の入試結果(国公立29名、関関同立127名(現役8クラス))を令和5年度の入試で国公立大学30名以上(H30:21名、R1:28名、R2 29名) 関関同立合格130名以上(H30:122名、R1:91名、R2 127名)(現役7クラス)とする。

(3) 生徒の心身の健康を育み、学力向上の土台作りをする。

- ア 遅刻・欠席を少なくするなど基本的な生活習慣及び自律的で規律ある生活態度を確立する。
- イ 生徒が心身の健康を保ち安心して安全な学校生活を送れるよう、教育相談体制のもと学校保健の取組みの充実を図る。
- ウ 災害や重大な事象に備えた危機管理体制を確立し、安全で安心な学びの場づくりを進める。
- エ 学校における新型コロナウイルス感染及びその拡大のリスクを低減したうえで、生徒の学びを保障していく。

2 自主活動の充実

(1) 生徒会活動をはじめとする自主活動の充実

- ア 体育祭を本校生徒会における最大の行事として位置づけ、本校独自の学年縦割り組織により生徒による自主的な運営の充実を図る。
- イ 文化祭における3学年それぞれの取組の充実を図る。
- ウ 生徒が積極的にかつ安全に部活動に取り組めるよう、指導者の確保や環境整備に努める。

* 生徒向け学校教育自己診断における学校満足度を100%に近づける。

(2) 外部連携とボランティア活動の充実

- ア チャリティーマラソンの実施(国内被災地やネパールへの支援)をはじめボランティア活動を積極的に推進する。
- イ 部活動・教科活動における異校種間の交流・連携、地域連携などを継続する。

(3) 芸能文化科の活動の情報発信と伝統文化の継承

- ア 様々なメディアを通じて、芸能文化科の教育内容や外部連携の内容が伝わるよう情報発信を行う。
- イ 芸能文化科が長年に亘って行ってきた活動を充実し、さらなる伝統文化の継承と社会貢献を行う。

3 人権教育、キャリア教育、国際理解教育の充実

(1) 自他を尊重することのできる幅広い人権教育に計画的に取り組む。

- ア 令和2年度からの共生推進教室設置によりあらゆる教育活動において「ともに育ち二兎を獲る」教育を推進する。

(2) 「総合的な探究の時間」等を活用し、自らの将来に希望を持ち自己実現に向けて努力を重ねることができるよう、SDGs(持続可能な開発目標)の視点も踏まえた、キャリア教育を引き続き計画的に推進する。

(3) 他者への思いやりと貢献意欲を強く持ち、行動に移すことのできる、地域社会・国際社会で必要とされる人材を育成する。

- ア 海外への修学旅行や海外研修を経験することで、国際語である英語の習得意欲を喚起するとともに、国際社会に生きる人材として異文化体験を通じてグローバルな視点を養う。
- イ 国際社会における意思疎通の手段の一つとして重要な位置を占める英語でのコミュニケーション能力を高めるため、授業・補習にとどまらず、朝のHRを利用した英単語テスト、英語学力調査、外国語指導者の効果的な活用など様々な取組み等を積極的に推進する。

* 英語学力調査は平成30年度から全員が教育産業による4技能校内受験を実施、令和5年度の4技能平均CEFR B1以上を目標とする。

4 チーム学校のさらなる資質向上と学校の魅力発信

(1) 学校の課題を常に点検し、教職員研修の充実を図る。

(2) 校内研修の充実や、校務の精選・効率化により、チーム学校のさらなるパワーアップをめざす。

(3) 学校のさらなる魅力発信を行う。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

| 学校教育自己診断の結果と分析 [令和3年 月実施分] | 学校運営協議会からの意見 |
|------------------------------|--------------|
| | |

3 本年度の取組内容及び自己評価

| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 [R2年度値] | 自己評価 |
|----------------------|--|---|---|------|
| 1 進路を実現する確かな学力の養成 | (1) 魅力ある授業づくり | ア・組織的な「授業力アップPT」を充実し、次期指導要領を見据えた校内研修・研究授業を継続して行う。 | ア・学校教育自己診断における「思考力を重視した問題解決的な学習指導」の評価 85%以上を維持する。 [88%] | |
| | ア 新学習指導要領を見据えた授業内容の充実 | ・「新指導要領対策PT」を継続し、新学習指導要領を踏まえ、第一志望の実現に向けた新教育課程を完成し、観点別評価の導入をめざす。 | ・授業アンケート 3.25 以上を維持する。 [第1回 3.27、第2回 3.26] | |
| | イ GIGA スクール構想に向けた校内研修の充実 | イ・生徒1人1台端末の導入に向けて、これまでの実践を継承・発展し、「GIGA スクール推進委員会」の設立により、校内研修を充実し、生徒の学びの深化を図る。 | イ・「ICTの活用」の評価 80%以上を維持する。 [82%] | |
| | (2) 進路実現のための取組 | | | |
| | ア 外部教育産業との連携 | ア・志望校情報交換会を前期・後期に開催して、生徒の志望校に関する情報を共有し、第一希望の進路実現を学校として支援する。 | ア・国公立大学現役合格者数目標 25 / 320 名以上 [29 名] 関関同立現役合格者数 100 / 320 名以上 [127 名] | |
| | イ 大学等との連携 | イ・大学等と連携し進学講演会などの行事を実施する。 | イ・進学講演会を年3回以上実施 | |
| | ウ 自習室及び QA スペースの活用 | ウ・自習室の運営や学習マラソンの実施、学習オリエンテーション、進路マップの導入及び学校経営推進費による QA スペースの活用により、懇談・質問への対応強化を図る。 | ウ・土、日も含め、7時から18時30分まで自習室を開室 (学校休業日を除く) | |
| | エ 英語の4技能を伸ばす取組 | エ・教育産業を活用し、生徒が意欲的に英語の4技能を伸ばす取組や授業の工夫を行う。 | エ・継続的なリスニング対策授業を充実し、共通テスト入試結果でのリスニング得点を全国平均の90%以上。 [91%] ・英語学力調査の1・2年生平均スコアの4技能平均 CEFR A2 を維持する。 [CEFRA 2] | |
| | (3) 生徒の心身の健康の推進 | | | |
| | ア 教育相談体制の充実 | ア・学年団、支援担当の状況共有を密にし、組織的な教育相談体制をさらに充実する。 | ア・生徒の相談体制を継続し、学校教育自己診断における教育相談の肯定的回答 70%以上 [63%] ・いじめアンケートと教員によるヒアリングを年2回以上実施し、いじめ対応についての肯定的回答は、生徒、保護者とも 85%以上にする。 [生徒:84% 保護者 86%] | |
| イ 進路実現に向けた生活習慣の確立 | イ・早朝の立ち番、声掛けを強化し、進路実現に向けて、基本的な生活習慣を確立させる。 | イ・遅刻数の10%減少 [遅刻 3047] | | |
| ウ 危機管理体制の充実 | ウ・災害や重大な事象に備えた危機管理体制を確立するため、生徒・保護者への連絡体制のさらなる充実を図る。 | ウ・ハザードマップや避難場所の周知を行うとともに、保護者・生徒への緊急メール・ブログの充実を図る。 | | |
| エ 新型コロナウイルス対策の充実 | エ・学校における新型コロナウイルス感染及びその拡大のリスクを低減したうえで、組織的にICTの活用を推進し、生徒の学びを保障していく。 | エ・「ICTの活用」の評価 80%以上を維持する。 [82%] 再掲 | | |

| | | | | |
|----------------------------|---|--|--|--|
| 2 自主活動の充実 | <p>(1) 自主活動の充実</p> <p>(2) 外部連携・ボランティア活動の充実</p> <p>(3) 芸能文化科の活動の情報発信と伝統文化の継承</p> | <p>ア・新型コロナ禍の中であらゆる行事の内容を見直し、さらなる充実を図る。</p> <p>イ・異校種交流や地域連携、チャリティーマラソン、小中学生対象理科実験教室、クリーンアップキャンペーン等を継続して行う。</p> <p>ア・様々なメディアを通じて、芸能文化科の教育内容や外部連携の内容が伝わるよう情報発信を行う。</p> <p>イ・芸能文化科が長年に亘って行ってきた活動を充実し、さらなる伝統文化の継承と社会貢献を行う。</p> | <p>ア・学校教育自己診断における学校行事の項目の肯定的回答90%以上。 [90%]</p> <p>イ・学校教育自己診断におけるボランティアに関する項目の肯定的回答を90%以上。 [89%]</p> <p>ア・芸能文化科の活動のLIVE配信、広報活動を引き続き行う。</p> <p>イ・芸能文化科生徒による社会貢献活動を引き続き実施する。</p> | |
| 3 人権教育、キャリア教育、国際理解教育の充実 | <p>(1) 人権教育の取組</p> <p>(2) キャリア教育の取組</p> <p>(3) 国際理解教育の取組</p> | <p>ア・3年間を見通した人権教育計画と教材により人権講演会及び人権HRを定着させる。</p> <p>イ・共生推進教室設置により、授業、行事、自主活動等において、地域と連携しながらともに学びともに育つ教育を推進する。</p> <p>ア・「総合的な探究の時間」において人権的視点を踏まえたキャリア教育を充実する。</p> <p>ア・台湾の高校とWEB交流等により、双方向の国際交流を図る。</p> <p>イ・英語でのコミュニケーション能力を高めるため、ホームルームの時間等を活用し、生徒による発表の機会を充実する。</p> | <p>ア・生徒対象の体験的人権行事や教職員対象の人権研修の実施により、自己診断における人権教育に係る項目の生徒の肯定的回答85%以上 [89%]</p> <p>イ・自己診断による「ともに学びともに育つ教育を実践」80%以上。 [86%]</p> <p>ア・自己診断での「将来の生き方や進路について学ぶ機会がある」90%以上。 [90%]</p> <p>ア・自己診断アンケートで、国際交流の質問項目の肯定的回答85%以上。 [評価なし]</p> <p>イ・英語レシテーションやスピーチのコンテスト等を充実する。</p> | |
| 4 さらなる資質向上と魅力発信 | <p>(1) 教職員研修の充実</p> <p>(2) 校務の精選・効率化</p> <p>(3) 学校の魅力発信</p> | <p>ア・ミドルアップダウンにより教員力アップにつながる教職員研修を計画的に実施する。</p> <p>イ・共生推進教室設置2年目となり、効果的な支援方法について、教職員研修等を通じて共有する。</p> <p>ア・校務の精選と効率化を組織的に行う。</p> <p>ア・ブログ、ホームページ等により、引き続き魅力発信を行うとともに、学校案内やリーフレットなどの作成により広く情報発信をする。</p> | <p>ア・自己診断「校内研修は教育実践に役立っている」を75%以上。 [74%]</p> <p>イ・学校教育自己診断による「ともに学びともに育つ教育を実践」80%以上。 [86%]</p> <p>再掲</p> <p>ア・時間外勤務時間のさらなる5%以上減少をめざす。 [前年度比11.4%減少]</p> <p>ア・自己診断「学校の情報提供」(保護者)を80%以上。 [82%]</p> | |